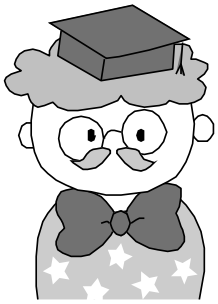
世界オモシロ発見!!

ーオモシロ博士のかいせつー



おっほん…えー、わしはオモシロ博士じゃ。
「CMN冬号」では「**世界中の学校の決まり**」をクイズにして紹介したのぅ。
ここでは、それぞれの問題について説明するぞ！
赤字で書かれているのが正解じゃ！

1. フィンランドでは、マイナス18℃以上であれば休み時間に （ *校庭に出なければ* ／ *マフラーを着用しなければ* ）ならない

「マイナス18℃なのに外で遊ばなきゃいけないの？寒すぎるよ！！」と思ったキミはおどろくかもしれないのぅ。実は、フィンランドの冬はマイナスが当たり前で、南端に位置する首都ヘルシンキの2月の平均最低気温は9．3℃。北部ラップランド地方のロヴェニエミの最低気温は14．1℃なのじゃ。このことから考えると・・・そうじゃ、この校則は子どもの耐寒機能を高めるためにあるのじゃ。氷点下の冬に乳児を公園で日光浴させたり、ベランダで昼寝させたりすることが常識なのじゃなぁ。
18℃に設定する理由も説明しよう。それは、大人が1時間以上、外の空気に触れ続けると危険とされる気温はマイナス20℃以下といわれているからなのじゃ。10～15分の休憩時間であっても、子どもが対象であるからマイナス20℃より少し高めのマイナス18℃を設定したのかもしれんのぉ。

2. ドイツでは休日に （ *スポーツ* ／ *宿題* ）をやってはならない

日曜日、祝日、夏休みなどの長期休暇に宿題の量が制限されているのじゃ。平日も同様で、教員は学級日誌に、宿題に要するおおよその時間を書き込み、その全部を足した時間が生徒の負担にならないように配慮するのじゃ。
この大きな理由は、親がすべき教育の責任を奪うと考えるためじゃ。ドイツでは〈子どもの教

育は親が持つべき権利であり、親の義務である〉というような内容が憲法で定められている。だから、学校が宿題によって、家庭での勉強や生活全般をコントロールしてはならないのじゃ。
また、休日に労働（勉強）してはならないからなのじゃ。ドイツの国民の7割以上はキリスト教徒じゃ。キリスト教徒にとって日曜日は安息と祈りの日なのじゃ。つまり、労働（勉強）をしてはならない、休むべき時なのじゃなぁ。

3. ドイツでは （ *室温が27℃以上あると* ／*校長先生の誕生日に* ）学校が休みになる

「え？27℃で暑いから学校が休みになるの？」「そもそも27℃で猛暑って・・・」と思うかもしれないのぅ。だが、ドイツでは国民が基本的に暑さに慣れていないのじゃ。過去には「ヨーロッパの夏は涼しい」と言われていたが、温暖化の影響を受け、ここ数年ドイツでは夏に30℃以上の日が珍しくなくなったのじゃ。

もうひとつの理由は、エアコンの普及率（ふきゅうりつ）が圧倒的に低いからじゃ。家庭、学校、店、公共施設にエアコンが設置されていないのじゃ。従来のドイツの夏は、朝夕は涼しく、期間が短かったのでエアコンが必要なかったのじゃ。
★豆知識★
・日本がなかなか真似できない猛暑対策がある！！
それは、〈keller〉と呼ばれる地下室に逃げ込むことじゃ。 ほとんどの一戸建ての家やアパートに設置されていて、洗濯室、物置、食料庫、駐車場などに使われているのじゃ。地下では暑さが和らぐため、テレビを見たり、読書をして気をまぎらわせたりすることができるのじゃ。

4. ベルギーでは通学かばんの中に、小説や（ *漫画* ／ *絵画* ）を常に入れておかなければならない

この文章は校則の一部を抜き出したもので、全文は以下の通りじゃ。「授業担当教員が休みで自習室に移動したとき、特に課題が出ていなければ、他の学習、または読書をする。そのためには通学カバンの中に小説・漫画を常備しておくこと」
そもそも、ベルギーの漫画事情はどんなものか話しておこう。エルジェ作の『タンタン〈Tin Tin〉』を知っているかな？1929年、子ども向け新聞に初めて掲載されてから、80カ国以上の言語に翻訳され、世界的に有名な漫画なのじゃ！他にも世界的に知られている漫画家が多くいるぞ。
日本の漫画も人気だが、ベルギーは自国の漫画をアートとして高く評価したのじゃ！！
この校則から、ベルギーの漫画文化に対する意識を感じとれるじゃろう。

5. ベトナムでは、トイレで使用した紙を便器の中に流さず、(*ゴミ箱* ／ *下駄箱*)に捨てなければならない

日本の学校だったら「トイレはきれいに使いましょう」といった内容であることが多いと思うが、ベトナムの場合は具体的であり、必要性に満ちているのじゃ。
さて、なぜじゃろう。それは、使用したトイレットペーパーを流すとつまりの原因になるからじゃ。「おいおい、待てよ。そんなの日本だって同じじゃないか」と思ったキミ、ちょっと考えてみてほしい。ベトナムのトイレは日本のそれと形も仕組みも違うのじゃ。都市部のホテルや観光客向けのレストランを除いて、わしらが日常的に使うタンク式ではないのじゃ。便座タイプと和式便器タイプがあり、トイレに入ると便器の横に水のたまったバケツが置かれているのじゃ。そこで柄杓(ひしゃく)で水をすくい、用を済ましたらザッと流す仕組みなのじゃ。この仕組みのトイレでは紙までスムーズに流せない。だから、そのままゴミ箱に入れるわけなのじゃなぁ。
★豆知識★
・ベトナム人はあちこちをこまめに掃除する、きれい好きな国民である！！
・ベトナム語では「水」のことを「ヌオック」といい、「ヌオック」は「国」を意味する言葉でもある。
〈ベトナム＝水の国〉なのじゃ。

6. マレーシアでは金曜日に （ *礼服* ／ *柄模様のある服* ）を着なければならない

マレーシアは、マレー人が全体の 3 分の 2 を占める。国の宗教はイスラム教じゃ。
イスラム教徒(「ムスリム」と呼ばれる)にとって金曜日は、礼拝のためモスクへ行く特別な日なのじゃ。そこで、礼拝に行く義務のある男子生徒は「礼服」で登校しなければならないのじゃ。
礼拝の時間は正午が一般的で、どこからともなく詩吟(しぎん)に似た声(「アザーン」と呼ばれる)が響きだし、生徒は昼休みを利用してモスクへ向かうのじゃ。

7. タイでは持ち物管理のため、(*監視カメラ* ／ *職員室*)を25 カ所設置している

この校則の原文では「置き忘れ、取り間違いを防止するため」という説明も書かれている。つまり、「盗難防止」のためじゃ。タイの首都バンコクとその周辺を含めた首都圏だけで、毎年3万台のバイクと4千台のクルマが盗まれるそうじゃ。そのため、バイクを毎晩、寝室まで持ち込むのが常識とさえ言われているのじゃ。
そうは言うものの、アメリカやイギリスと比べると、タイの学校にはさほど監視カメラは普及(ふきゅう)していない。それは、設置するには高額な費用が必要だからじゃ。しかし、これからはもっと監

視カメラの設置を増やしていくようじゃ。

8. オーストラリアでは、すべての生徒は（ *屋外に出る* ／ *屋内で遊ぶ* ）時に常に帽子をかぶらなければならない

太陽の光をじかに浴びるとガンになってしまうのじゃ。だが、地球は“オゾン層”があるおかげで、太陽の光がちょうど良く当たるようになっているのじゃ。ところがオーストラリアの上には、大きな“オゾンホール”という“オゾン層の穴”ができてしまったのじゃ。だからオーストラリアの子どもがガンにならないように守るため、太陽の光をさえぎるツバの広いぼうしをかぶることになっているのじゃ。

9. アメリカでは、授業時間中（ *廊下* ／ *最も後ろの席* ）にいる生徒は許可証を持っていなければならない

許可証は「ホールパス(廊下通行許可証)」と呼ばれ、アメリカ全土のほとんどの学校に同様のものが使用されているのじゃ。日付や生徒名などを記録するのじゃ。日本では手を挙げて先生に「具合が悪いのでトイレに行ってきます」と伝えれば、自由に教室から出られるじゃろう。しかし、アメリカでは先生からホールパスを受け取るまで教室から一歩も出られないのじゃ。これは、学校からの脱出を防ぎ、規律や風紀を守るために行っているのじゃ。
アメリカ人にとって、廊下は教室内と比べ、自由で素晴らしい空間に感じられるのかもしれないのぅ。

10. メキシコでは（ *トイレ* ／ *校門* ）に入って出た時間を係に報告しなければならない

まず、メキシコの公立中学校の授業時間について話そう。授業は7時～13時30分の〈午前の部〉、14時～20時30分の〈午後の部〉の2部制が一般的なのじゃ。1日中学校にいるのではないぞ。午前と午後で生徒は入れ替わるのじゃ！なぜなら、生徒の数に比べて校舎数が足りないからじゃ。さらに、長時間連続した授業なのじゃ！！例えば、7時～10時までの3時間連続で授業なのじゃ。30分の休憩後、また3時間の授業なのじゃ。集中力がもたないのぅ。そんなわけで、途中でトイレに行きたくなる生徒も当然いるのじゃ。
授業中にトイレに行くと、入口に〈prefecto〉と呼ばれる事務員がいて、入った時刻と出た時刻を伝えてくれるのじゃ。生徒は、各階に待機している別の事務員に伝えられた時刻を告げなくてはならない。生徒の教室脱出を予防して、学校の規律を保つため（9番のクイズ同様）じゃのぅ。
なかなか大変に思えるのぅ。だが、〈recreo〉と呼ばれる30分休憩にはお菓子を食べてもよいのじゃ！

※クイズは各国全般の校則もあるが、ほとんどは特定地域や特定の学校の規則である。（参考資料にはどの地域・学校のものか記されている）
※参考資料：二宮皓／監修．２０１１．『こんなに厳しい！世界の校則』メディアファクトリー新書